

## 2023年度 事業計画 及び 収支予算

### I—1 2023年度 公益目的事業計画

2023年度は九州交響楽団にとって創立70周年という節目の年であり、そして2013年4月以来10年間の長きにわたり九響の音作りに尽力してきた小泉和裕音楽監督のラストシーズンでもある。このため小泉音楽監督は4月の定期演奏会を皮切りに3回の定期演奏会のほか「名曲・午後のオーケストラ」、熊本、鹿児島、東京の3都市での70周年記念コンサートと、7公演において小泉＝九響の集大成となる演奏を披露する。

また、2020年2月以来、3年間に亘り新型コロナ対策に追われてきたが、2023年度はポスト・コロナ、ウイズ・コロナを見据え、楽団のミッションの一つである「良質なクラシック音楽の素晴らしさと感動をお届けし、日本のトップオーケストラを目指す」という目標達成に向け、国や福岡県、福岡市、北九州市をはじめ九響後援会各位からの助成を頂きながら、公益目的事業としての演奏活動を継続していく。具体的には、これまで同様「定期演奏会」「名曲・午後のオーケストラ」「天神でクラシック」「北九州定期演奏会」の4シリーズを中核とし、単独公演である「三大バレエの世界（旧三大交響曲の夕べ）」「第九公演」「ニューイヤーコンサート」「九響サマーコンサート」「オーケストラ for キッズ（旧九響・春のこどもコンサート）」を、時代のニーズに合わせて内容をリニューアルしつつ継続して実施する。

地域へ音楽文化のすそ野を広げていく取組みとして令和4年度から始めた「マタニティコンサート」は、0歳児から入場できるコンサートとして大変好評だったため、今年度も継続して開催する。これにより3歳児から入場できる「九響サマーコンサート」「オーケストラ for キッズ」と併せてすべての世代に向けたアプローチが完成する。今後は更にSDGsの観点から、社会のニーズを的確にとらえ、老若男女すべての世代に受け入れられるプログラミングや新たなコンサートの在り方を模索していく。

コロナ禍の影響により観客動員数が大幅に減少し、未だコロナ前の水準には回復していない状況だが、令和2年度からコロナ対策の一つとして開始したコンサートのライブ配信事業については、DX（デジタルトランスフォーメーション）の積極的活用の観点から、収益の状況を見据えつつ今年度も引き続き3公演で実施する。

更には、創立70周年を記念してオリジナルグッズの制作や記念サイトの立ち上げなど、演奏会以外にもお客さまに楽しんでいただく様々なコンテンツを準備するなど、九響ファンのすそ野拡大を目指した取組みを推進する。

#### (1) 主催公演

主催公演は、九響が自ら企画して市民に幅広く告知・販売して公演を行うことにより、クラシック音楽の魅力を市民にお届けし、音楽文化の発展に寄与する公演である。

2023年度については、福岡市で28公演、北九州市で4公演、東京、熊本、鹿児島でそれぞれ1公演を実施する。

福岡市では、以下の28公演を実施する

- ① <定期演奏会> (9公演)
- ② <天神でクラシック> (4公演)
- ③ <名曲・午後のオーケストラ> (4公演)
- ④ <第九公演> (1公演)
- ⑤ <ニューイヤーコンサート2024> (1公演)
- ⑥ <九響マタニティコンサート2023> (2公演)
- ⑦ <サンクス・コンサート> (1公演)
- ⑧ <九響サマーコンサート2023「アニメ・コンチェルト」> (2公演)
- ⑨ <チャイコフスキー三大バレエの世界> (1公演)
- ⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロスー万人コンサート)> (2公演)
- ⑪ <オーケストラ for キッズ> (1公演)

#### ① <定期演奏会 9公演>

<定期演奏会>は、地域における芸術文化の発展を目的とし、オーケストラを通してクラシック音楽文化の普及促進を図る演奏会。初演作品や実演に触れる機会の少ない音楽作品などを積極的に取り込み、九州のクラシック界をリードする芸術性を重視したプログラムをお届けする。また、地理的にアジアと近い九州の特性を活かしてアジア出身の指揮者を招聘するなどアジアとの文化交流の礎を築いていく。

2016年から開催してきた定期演奏会のプログラム解説講座「目からウロコ!?!のクラシック講座」をリニューアルして2023年度より「目からウロコ!?!の九響おんがくアカデミー」と改題し、開催時間を夕方の18時30開始に変更、通勤帰りのお客さまにも配慮するとともに楽団員による生の演奏を盛り込むなど、より魅力ある講座を目指す。

また、コロナ禍で長らく休止していたロビーコンサートや楽団員による“お見送り”についても新型コロナの5類への移行を目途に再開すべく検討する。

#### ● 2023年度の特徴として

- (i) 創立70周年のメモリアル・イヤーとなるシーズンに相応しく小泉音楽監督によるブラームスの壮大なる人間賛歌「ドイツ・レクイエム」(12月)や神奈川フィル、京都交響楽団との共同企画による演奏会形式でのR. シュトラウスの楽劇「サロメ」(7月)などの大曲に取り組む。また、小泉音楽監督はオネゲルとベートーヴェンの二つの対照的なテイストを持つそれぞれの「交響曲第3番」で2023年度のオープニングを飾る(4月)。

音楽監督として登壇する最後の定期公演は70周年記念演奏会として開催。小泉音楽監督がライフワークとするベートーヴェン作品の中から「交響曲第2番」とR.シュトラウスの大曲、交響詩「英雄の生涯」を選曲、大編成オーケストラの醍醐味を存分にお届けする。(3月)

- (ii) 2023年度、国外から招聘予定の指揮者は4名とした。フランスを代表する指揮者パスカル・ロフェは九響初登場。デュカスの代表曲である交響詩「魔法使いの弟子」をはじめフランス音楽を中心に演奏する。(5月) マカオ出身の俊英リオ・クオクマンも九響初登場。アダムズやバーバー、コープランドの作品でアメリカン・クラシックの世界を披露する。(6月)

ドイツを拠点に活躍の場を広げるキンボーイシイが九響の定期演奏会に初登場し、マーラーの交響曲第4番をはじめ九響初演となるJ.シュトラウスⅡのワルツ「フェニックスの羽ばたき」などウィーンを中心に活躍した作曲家の珠玉の作品をお届けする。(10月)

今年2月に3年ぶりに来日し好評を博したロシアの巨匠、ポリャンスキーが2023年度も九響のステージに立ち、生誕150年を迎えるラフマニノフの最高傑作との呼び声高い「交響曲第2番」他で聴衆を魅了する。(11月)

国内からの客演指揮者は2名、オペラ作品の指揮に豊富な実績を持つ沼尻竜典がR.シュトラウスの楽劇「サロメ」で大編成のオーケストラと声楽による豊麗な旋律と大胆な不協和音が交錯する壮大な音楽体験に観客を誘う。(7月) クラシック界の重鎮で九響の桂冠指揮者の秋山和慶がシューマンとブルックナー二大作曲家の魅力を余すところなくお伝えする。(9月)

- (iii) 多彩なソリスト陣との共演も予定している。2021年ARDミュンヘン国際音楽コンクールピアノデュオ部門で日本人初の3位に輝いた福岡出身の坂本彩、リサ姉妹が九響と初共演。(5月) 日本を代表するヴァイオリニストの一人、神尾真由子はバーバーのヴァイオリン協奏曲で超絶技巧を披露する。(6月) シューマンの「ピアノ協奏曲」ではシューマンをライフワークとする伊藤恵が久しぶりに九響と共演。(9月) ベルクの「ヴァイオリン協奏曲」では青木尚佳が作品の精神性を鮮明に表現し新ウィーン学派の魅力を引き出す。(10月) 成長著しい若手ピアニスト牛田智大はラフマニノフ「パガニーニの主題による狂詩曲」で観客を魅了する。(11月)

歌い手では砂川涼子(10月)、並河寿美、青山貴(12月)が、声量豊かな歌唱をお届けする。また、田崎尚美を始めとする珠玉の歌い手達がコンサートオペラ「サロメ」で魅力あふれる歌唱を披露する。(7月) 地元の九響合唱団はオフィシャルパートナー合唱団とともに「ドイツ・レクイエム」でその実力を発揮する。(12月)

## ② <天神でクラシック 4公演>

<天神でクラシック>は、幅広い世代へのクラシック音楽の普及を目的とし、各回それぞれプログラムにテーマを設け、出演者の解説トークを交えることでクラシック音楽に馴染みのなかったお客さまにも生の演奏の魅力を実感していただくコンサート。F F Gホールの特性を考慮して小編成のオーケストラ作品の魅力を紹介する。昨年度までのサブタイトル“音楽プロムナード”を改め、

2023年度から“音楽 発見！ラボ”シリーズとして、お客さまの知的好奇心を心地よく刺激するコンサートで、印象深いひとときと名曲に親しみながら音楽知識が身に着く喜びをお届けする。

● 2023年度の特徴として

- (i) 2024年度から首席指揮者となる若手指揮者のホープ太田弦が18世紀の古典主義的傾向を色濃く反映したラヴェルの「クーランの墓」、サクソフオーンの魅力満載の真島俊夫、狭間美帆の2作品、ビゼーの才能が溢れる初期の習作「交響曲」など、エスプリに富んだプログラムで登場。世界的サクソフオーン奏者須川展也の圧巻のパフォーマンスも見どころ。(4月)
- (ii) バロック音楽のスペシャリスト延原武春が古典的解釈をもってメンデルゾーンの習作をお届けする。ソロ・コンサートマスター扇谷泰朋がソリストとして「ヴァイオリン協奏曲」で登場。(7月)
- (iii) 進化著しい松村秀明が九響初演となるルーセルの「小管弦楽のためのコンセール」をはじめ宝石のようなきらめきを放つ魅力的な室内オーケストラ作品で観客を魅了。カバレフスキーの「チェロ協奏曲第1番」ではジュネーブ国際音楽コンクール・チェロ部門で日本人初の優勝を果たした上野通明がその実力を披露する。(11月)
- (iv) モーツァルトの誕生日にお送りしているロングラン企画「続... モーツァルトをあなたに」では、昨今、マルチな活躍で人気を博す鈴木優人が「フィガロの結婚」序曲をはじめモーツァルトの人気作品をラインアップ。2016年フランス・リスト国際ピアノコンクールでアジア人男性ピアニスト初優勝の快挙を成し遂げた阪田知樹との共演による「ピアノ協奏曲第20番」は必聴。(1月)

③ <名曲・午後のオーケストラ 4公演>

2015年度から開催している<名曲・午後のオーケストラ>は、クラシック音楽の普及を目的に、子供からお年寄りまで来場しやすい休日の午後2時に開演し、馴染みのある名曲をお届けすることで、フルオーケストラの迫力や生の演奏の魅力を実感していただく。

● 2023年度の特徴として

- (i) 2023年度名古屋フィルの音楽監督に就任する若きマエストロ、川瀬賢太郎がスペインをテーマとした名曲、ビゼーの「カルメン」ハイライトとスパニッシュな雰囲気になりすぎたファリア「三角帽子」を披露する。(5月)
- (ii) 九響名誉客演指揮者の“炎のコバケン”こと小林研一郎がムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」を、情熱のタクトでオーケストレーションが際立つ「ラヴェル編」により演奏。豪華絢爛なサウンドを更なる極みに導く。ソリスト生活20周年を迎えた上原彩子が奏でるチャイコフスキーの「ピアノ協奏曲第1番」と合わせた豪華なプログラムでお届けする。(7月)
- (iii) コロナ禍でなかなか実現しなかったアクション・ペインティングとのコラボ企画。フルーティストとして名高いパトリック・ガロアが指揮するプロコフィエフ作の「ロミオとジュリエット」

に合わせてティア・オサラがキャンパスに現代アートを描く。ガロアの高弟、瀬尾和紀との師弟共演によるフルートのハーモニーは秀逸。(9月)

- (iv) ベートーヴェンとレスピーギ、二人の音楽家が風物を題材に創り上げた世界観を小泉音楽監督のタクトで一度に味わえる贅沢なコンサート。「交響曲第6番 田園」は不動の人気を誇るメジャー曲の一つ、レスピーギの「ローマの松」はフル編成のオーケストラによる壮麗な交響詩。(2月)

#### ④ <第九公演>

年末恒例の企画として定着している公演。我が国を代表するマエストロの1人広上淳一が実力派揃いのソリスト達、九響合唱団他地元合唱団と共に不朽の人間賛歌を高らかに歌い上げ、2023年を締めくくる。(12月)

#### ⑤ <ニューイヤーコンサート 2023>

新年幕開けの公演。2024年は“マロ”の愛称で親しまれる篠崎史紀が2年ぶりに登壇し、指揮とヴァイオリンの弾き振りでウイenna・ワルツほかクライスラー作品を披露。華やかに新年を祝う。(1月)

#### ⑥ <九響マタニティコンサート 2023> (2公演)

本コンサートは2022年度から新たに開始した、お腹の中の赤ちゃんやママとパパにゆっくりとオーケストラ音楽を味わっていただく演奏会。普段コンサートに行きたくても行けない方々にも是非お勧めしたい内容。昨年に続き2023年度もマエストロに辻博之を迎え、指揮とお話を交えた楽しい雰囲気、妊婦さんや、小さなお子さまの育児に忙しいパパやママに深いリラクスの時間をお届けする。(4月)

#### ⑦ <サンクス・コンサート> (1公演)

コンサート会員に入会いただいたお客さまだけをお招きしてお届けする特別な演奏会。指揮者を置かずにソロ・コンサートマスターの扇谷泰朋氏がリーダーシップを取り、メンバー一人ひとりの自発的なコミュニケーションによって音楽を作り上げていく異色のコンサート。(6月)

#### ⑧ <九響サマーコンサート 2023「アニメ・コンチェルト」> (2公演)

2021年度開始以来、好評を博している同企画を、一部会場を替えて2023年も実施する。ステージ上スクリーンに映し出されたアニメキャラクターと一緒にオーケストラ演奏をファミリーで楽しむ企画。幅広いジャンルで活躍する指揮者竹本泰蔵、映像とのシンクロ演奏で多くの支持を得ているピアニストCHIAKIを迎えて楽しい夏休みの一コマを演出する。(8月)

⑨ <チャイコフスキー 三大バレエの世界>

昨年度まで「三大交響曲の夕べ」として開催していたコンサートをリニューアルし、チャイコフスキー最後のバレエ音楽「くるみ割り人形」、古典バレエ音楽の最高峰「白鳥の湖」、豪華絢爛な大作「眠れる森の美女」の3曲を一度に堪能できる贅沢なひとときを提供する。(8月)

⑩ <舞台芸術感動体験事業コンサート(アクロスー万人コンサート)> (2公演)

本公演は、アクロス福岡と福岡県教育委員会、福岡県教育文化奨学団体からなる実行委員会と九州交響楽団がコラボして青少年を対象に企画しているコンサート。2023年度も上記団体と協力し、共催事業として2公演実施する。(11月)

⑪ <オーケストラ for キッズ> (1公演)

「九響 春の子どもコンサート」をリニューアルし、3月31日の「オーケストラの日」の関連イベントとして大迫力のオーケストラサウンドを子どもたちにお届けする。指揮は松元宏康、歌のおねえさん西けいこが歌と司会で会場を楽しく盛り上げる。(3月)

北九州市では、以下の4公演を実施する。

北九州市での公演は、福岡県北東部のクラシック音楽普及促進を目的として、4公演を実施する。

① <北九州定期演奏会> (2公演)

② <第九公演> (1公演)

③ <ニューイヤーコンサート2024> (1公演)

① <北九州定期演奏会 2公演>

「ウエルとばた」での4月公演は、2024年度から首席指揮者となる若手指揮者のホープ太田弦が18世紀の古典主義的傾向を色濃く反映したラヴェルの「クーランの墓」、サクソフォンの魅力満載の真島俊夫、狭間美帆の2作品、ビゼーの才能が溢れる初期の習作「交響曲」など、エスプリに富んだプログラムで登場。世界的サクソフォン奏者須川展也が圧巻のパフォーマンスで魅了する。

9月公演は、ソレイユホールにてフルーティストとして名高いパトリック・ガロアによるアクション・ペインティングとのコラボ企画。ガロアが指揮するプロコフィエフ作の「ロミオとジュリエット」に合わせてティア・オサラがキャンパスに現代アートを描く。ガロアの高弟、瀬尾和紀との師弟共演によるフルート演奏は秀逸。

② <第九公演>

福岡公演と同じく広上淳一のタクトで実力派シンガー達のソロと合唱団「北九州市民フロイデコール」が年末の風物詩となったコンサートをお届けする。(12月)

### ③ <ニューイヤーコンサート 2024>

福岡公演と同じく篠崎史紀の弾き振りで華やかに新年を祝う。恒例のシュトラウス作品に加え、クライスラーの珠玉の作品を演奏する。(1月)

## 70周年記念演奏会として鹿児島、熊本、東京では以下の3公演を実施する

### ① <九州交響楽団 70周年記念演奏会 鹿児島公演、熊本公演>

創立70周年の感謝を込めて、小泉=九響が総力を挙げてクラシック音楽の金字塔、ベートーヴェンの交響曲第6番「田園」と第5番「運命」を披露。優美さをたたえた「田園」、激情がほとばしる「運命」を、2023年度で音楽監督を勇退する小泉和裕が渾身のパフォーマンスでお届けする。(3月)

### ② <九州交響楽団 70周年記念演奏会 東京公演>

創立50周年記念コンサートを2004年に開催して以来、20年ぶりとなる東京公演をサントリーホールで開催する。ベートーヴェンに熱い情熱を注ぐ小泉音楽監督が満を持して贈る「交響曲第2番」は演奏会ではセレクトされる機会が少ない必聴の作品。大編成のオーケストラによる圧倒的な音楽世界が広がるR.シュトラウス最後の交響詩「英雄の生涯」は、その壮大なスケールからオーケストラに高度かつ精緻な技術を求める曲。小泉=九響の真骨頂を存分に響かせるプログラムで11年間の音楽監督としての有終の美を飾る。(3月)

## (2) 依頼公演

依頼公演は、<主催公演>以外、鑑賞団体、企業、学校などから公演の依頼を受け出演するコンサートであり、九響にとって重要な収入源である。2023年度の依頼公演については、「中学生の未来に贈るコンサート」が2021年度から始まった新たな契約(3年間)の最終年として42公演を実施するほか、全依頼公演は77公演を予定している。

2023年度も文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業(巡回公演事業)」に採択されたことにより、6公演を実施する。この他、公演依頼先からお声掛け頂いた場合には、お客さまのニーズにお応えしながらスケジュールが許す限り積極的に受託していく。

一方、オーケストラ業務に支障のない範囲で《室内楽》演奏も実施する。この《室内楽》も<依頼公演>に含まれる。

---

前述、<主催公演>、<依頼公演>は、公益法人の公益目的事業区分において[1]定期演奏会、[2]巡回演奏会、[3]特別演奏会、[4]移動音楽教室、[5]依頼演奏会の5種類に分類している。

公益法人における公益目的事業区分は以下のとおり。

[1] 定期演奏会 (11 公演：福岡市 9 公演、北九州市 2 公演)

福岡市での

<定期演奏会> (9 公演)

北九州市での

<定期演奏会> (2 公演)

[2] 巡回演奏会 (12 公演：福岡市 10 公演、北九州市 2 公演)

福岡市での

<天神でクラシック> (4 公演)

<名曲・午後のオーケストラ> (4 公演)

<第九公演> (1 公演)

<ニューイヤークンサート 2024> (1 公演)

北九州市での

<第九公演> (1 公演)

<ニューイヤークンサート 2024> (1 公演)

[3] 特別演奏会 (12 公演)

福岡市での

<九響マタニティコンサート 2023> (2 公演)

<サンクス・コンサート> (1 公演)

<九響サマーコンサート 2023「アニメ・コンチェルト」> (2 公演)

<チャイコフスキー 三大バレエの世界> (1 公演)

<舞台芸術感動体験事業コンサート (アクロス一万人コンサート)> (2 公演)

<オーケストラ for キッズ> (1 公演)

鹿児島市での

<九州交響楽団 70 周年記念演奏会> (1 公演)

熊本市での

<九州交響楽団 70 周年記念演奏会> (1 公演)

東京都での

<九州交響楽団 70 周年記念演奏会> (1 公演)

[4] 移動音楽教室 (1公演)

情操教育を目的とした公演であり、依頼を受け実施する〈依頼公演〉の一つであるが、〈移動音楽教室〉として分類している。

[5] 依頼演奏会 (107公演：オーケストラ公演：77公演、室内楽演奏：30公演)

<参考> 公演数一覧

	2023年度計画	2022年度計画	2022年度実績(見込)	計画増減
定期演奏会	11回	12回	12回	1回減 <sup>※1</sup>
巡回演奏会	12回	12回	12回	増減なし
特別演奏会	12回	12回	12回	増減なし
移動音楽教室	1回	1回	1回	増減なし
依頼演奏会	82回	96回	106回	14回減 <sup>※2</sup>
合計	118回	133回	143回	15回減

※1 第407回定期演奏会(10/7、8)2回開催

※2 依頼演奏会5回減、町村会10回減、文化庁1回増

<参考> 2022年度公演

	計画	実績(見込み)	増減内訳
定期演奏会	12回	12回	増減なし
巡回演奏会	12回	12回	増減なし
特別演奏会	12回	12回	増減なし
移動音楽教室	1回	1回	増減なし
依頼演奏会	96回	106回	・依頼演奏会：3回増 ・中学生公演：増減なし ・文化庁公演：7回増
計	133回	143回	10回増